



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

## 歯に纏わる(まつわる)熟語—歯学部だより6月号の編集後記に続く—

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

先月の歯学部だより6月号の編集後記で担当者のKTが、明眸皓齒(めいぼうこうし)として掲載したのですが、意味がわからないとの意見が多数だったため歯に纏わる(まつわる)熟語を紹介させて頂きます。明眸皓齒(めいぼうこうし)の「眸」は瞳のことで、明眸は美しい瞳となり、「皓齒」は白く輝く歯を意味し、美女の形容です。非業の死を遂げた楊貴妃を偲んで、唐の詩人杜甫(とほ)が作った詩の中で使われた語がその発祥といわれています。これによく似た熟語としては蛾眉皓齒(がびこうし)というものもあり、蛾の触角のように細く弧を描いた美しい眉と白い歯ということで美人を表現した語です。そういえば最近では男性スポーツ選手でも眉を剃っていると思われる選手が多くいるような感じがします。(単に美男に対するヒガミ発言ですから無視して下さい。)さらに「皓齒」を使った語としては朱唇皓齒(しゅしんこうし)という美女を形容する四字熟語もあり、赤い唇と白い歯に魅力を感じるのは古今共通の男性の思考(嗜好?)のようです。

ところでこの朱唇皓齒で使われている唇と歯は隣同士の位置関係にあり、切っても切れない密接な関係を示す意味でも用いられるようです。「唇齒之國」とは一方が駄目になると他方も危うくなるような密接な関係を示し、同義語として唇亡齒寒(しんぼうしかん)、『唇亡びて齒寒し』などが挙げられます。どちらにしても滅びたり、寒くなるのは寂しいので、私としては柔道の精神の「自他共栄」から拝借して、「唇齒共栄」という造語を提言したいと思います。また『唇潤いて齒輝き』などもいかがでしょうか。

さらに、持ちつ持たれつを意味する言葉として唇齒輔車(しんしほしゃ)という熟語もあるよ

うです。「輔車」とは一説によると頬骨(ほほの骨)と下あごの骨のことだそうです。歯学的には下あごの骨(下顎骨)には頬骨弓という部位から始まる強力な咬筋という筋肉が付いており、これによりしっかり噛むことができるわけで下顎骨と頬骨を示す「輔車」という言葉を作った中国の先人は解剖学の知識も備わっていたのではないかと、その英知に思わずホホーツと感心してしまいます。

さて、切齒(せつし)とは歯科の専門用語としては前歯を示しますが、中国から伝来した熟語においては「切齒」とは歯ぎしり、歯をくいしばることを意味するようです。切齒扼腕(せつしやくわん)とは、歯ぎしりしながら「扼腕」すなわち自分の腕を握りしめることで転じて、激しく怒り、たいへん悔しく思うことを示すそうです。またこれに似た熟語に切齒腐心(せつしふしん)という言葉があり、『歯ぎしりしながら心を悩ませる』という意味で使われるようですが、歯科医師としては『歯をくいしばって苦心(努力)する』意味で使われてもらいたと思います。

言葉は生きているので、時代とともに意味が代わったり、滅びた言葉も少なくありません。例えば平安時代のキリギリスは現在のコオロギであるのは有名な事例です。今回話題とした熟語は「慣用句」としては既に『死語』と言えるかもしれませんが、しかし、歯科医師の私としては、今回挙げた熟語などが『歯語』として復活し、また良い意味に転じて使われるようになることを願います。

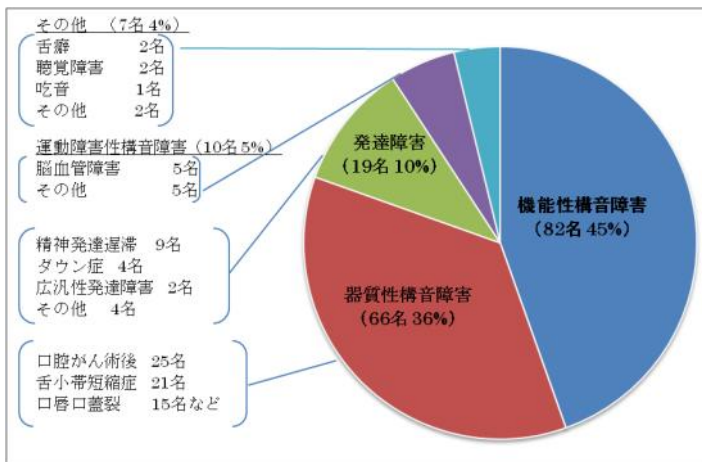


## 言語聴覚療法室の紹介

言語聴覚療法室では、お子さんから成人まで幅広い年齢層の「発音の問題」に対して言語聴覚士が相談・訓練を担当しています。また、指しゃぶりや舌癖などの口腔異常習癖については、月1回口腔筋機能療法(MFT)も行っています。

Q：どのような患者さんが多いのですか。

平成23年度に言語聴覚療法室を受診された新患者さんの内訳を紹介します。



最も多かったのは、「医学的な問題がないにもかかわらず、サ行、カ行、イ列音などが発音しにくい」という「機能性構音障害」と呼ばれる発音障害です。幼稚園では「おさかな」→「おたかな」と発音しても「かわいい話し方」とされますが、小学校高学年になってもこの状態が続くと、「本人が気にして友達と話さなくなる」などの心理的なストレスを生じることがあります。このような場合には、出来るだけ早く専門的な訓練を行って発音を改善する必要があります。最近では、「イ列音を発音しようとすると、舌が横にずれてしまい、空気が横からもれる」という「側音化構音」という発音障害に気がつき、「就活の面接に合格するためにどうしても治したい」と訪れる大学生も増えてきました。社会で活躍するためには、発音をしっかりと治しておくことも大切です。

2番目に多かったのは、お口の中の病気が原因で生じた発音障害で、「器質性構音障害」と呼ばれる構音障害です。その中で多いのが、口腔がんの手術を受けた後に生じる発音障害です。言語聴覚療法室は、昭和大学歯科病院の「初期口腔がん診療チーム」のメンバーとして手術の前から発

音をチェックし、入院中から効果的なリハビリを行っています。また、舌を大きく手術しなければならない場合は、歯科の先生が舌接触補助床という特殊な入れ歯を作り、言語聴覚士が上手に話すコツを訓練します。次に多いのが、舌小帯短縮症による発音障害です。舌の裏のひもが短いため舌を自由に動かすことができず、発音障害を伴ってしまうことも多くみられます。歯科の先生が舌小帯を伸ばす手術を行い、言語聴覚士が舌のトレーニングや発音訓練を行います。「はじめに手術を行った方が良いか?」、「舌の動きや発音を治してから手術を行った方がよいか?」については歯科の先生と言語聴覚士とがよく話し合い患者さんにとって一番良い治療法を考えていきます。最後は口唇口蓋裂による発音障害です。赤ちゃんの時に手術をしているのでお口の形は問題ないのですが、発音障害がみられる場合があります。矯正歯科の先生と相談しながら、言語聴覚士による専門的な発音訓練が必要となります。

この他にも、発達の遅れに伴って発音障害が生じる場合や、脳卒中の後遺症などで発音が障害される場合などいろいろな方が来院されます。

Q：どのようにして相談・訓練するのですか。



言語聴覚士がその方の症状に応じて相談・訓練を行います。原則として毎週1回60分程度行います。治療に必要な期間はおよそ1年程度と長くかかりますが、正しい発音をしっかりと学ぶことができるので、後戻りすることなく、会話の中でも無意識に使えるようになります。

良い結果を得るためには、「発音を治したい」という強い気持ちが必要です。お子さんの場合は、5歳(年長さん)から小学校低学年までに治療すると学校の勉強にも支障なく続けられます。

言語聴覚療法室の窓口は、昭和大学歯科病院3階東診療室の口腔リハビリテーション科です。「発音の問題」「舌癖」が気になる場合は、まず、言語聴覚士にご相談ください。お話を伺いながら、一番良い解決方法を考えたいと思います。

(言語聴覚士 山下夕香里)

成人では1日約1~1.5リットルの唾液が分泌される事が知られていますが、このように大量の唾液はどこからやってくるのでしょうか？その大部分は、耳下腺、顎下腺および舌下腺と呼ばれる大唾液腺でつくられています。

このような唾液は、口腔内の環境および機能などの維持に重要な役割を果たしています。唾液の機能をつかさどる因子は、水、電解質およびタンパク質がありますが、これらが相互に関連しながら口腔内環境と機能が維持されています。唾液の機能の詳細は大きく分けて3つに分けることができます。すなわち、(1)口腔粘膜および歯質に対する作用、(2)食物に対する作用および(3)微生物に対する作用です。具体的には、

### (1)口腔粘膜および歯質に対する作用

#### ① 歯の保護および再石灰化促進

唾液は、カルシウムおよびリン酸を含み、エナメル質の溶解を防ぐのみならず再石灰化を促進します。

#### ② 緩衝作用

唾液は炭酸および重炭酸を含み、pHの調節を行っています。このことにより、細菌が産生する酸が中和され歯の脱灰が防がれています。

#### ③ 口腔粘膜の保護・修復作用

唾液中に豊富に含まれるムチンは、口腔粘膜を被覆することにより、細菌感染や化学的・物理的な刺激より粘膜を保護しています。また、上皮増殖因子などの成長因子やサイトカインも含み、粘膜の修復作用を有します。動物が傷口をなめるのはこのためと考えられています。

#### ④ 抗炎症作用

唾液には炎症病巣などで産生されたフリーラジカルを消去する物質が含まれ、抗炎症作用や抗癌作用を有しています。

### (2)食物に対する作用

#### ① 食塊形成作用

消化活動における食塊形成は、歯で咬み砕かれた食片を一塊にし、さらに咬み砕いて次第に

細かくしていく過程が必要です。これには唾液に含まれるムチンなどが重要な役割を担っており、このタンパク質は水を多量に含むことができかつ粘着性があるため、食片をまとまった塊にするのに役立ちます。

#### ② 消化作用

唾液中に含まれるアミラーゼは、デンプンを麦芽糖に分解する消化作用を有します。

#### ③ 自浄作用

自浄作用は唾液の水とタンパク質によるもので、口腔内の歯についての食物残渣や、歯周組織の落屑をタンパクに吸着しながら、水の流動性を使って洗い流します。

#### ④ 味覚形成

唾液は、味覚を感じずる物質を溶解するとともに、その分解を行うことにより味覚を形成します。

### (3)微生物に対する作用

#### ① 抗菌作用

唾液の中には様々な抗菌物質が含まれており、代表的なものとしてペルオキシダーゼ、リゾチーム、ラクトフェリンおよび分泌型IgA抗体(sIgA)を分泌します。

#### ② 洗浄作用

唾液中のムチンは細菌を吸着させ、凝集させて洗い流します。これにより、お口の過剰な細菌増殖を防いで、口腔組織の抵抗力とのバランスを保つことができます。

このように、様々な機能を持つ唾液は、いろいろな原因によりその分泌量が低下することが知られ、う蝕、歯周病、口腔内感染症、摂食嚥下障害および誤嚥性肺炎などの一因となり、症状が重篤な場合は著しい生活の質の低下をもたらすことが知られています。

最近、お口の乾きや粘つきが気になる方、また、食べ物が飲み込みにくいとお感じになる方は当院にご相談ください。



## 健口フェスティバル開催報告

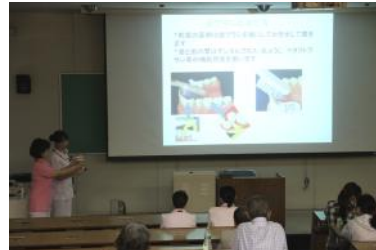
平成24年度の健口フェスティバルは、7月14日(土)に開催され、公開講座、院内コンサート、技工体験、模擬店が行われました。反省点や改善点もたくさんありますが、当院のスタッフの協力もあり、無事に終了してひと安心しました。

今年で15回目となった公開講座は長時間にもかかわらず、講師の話をも熱心に聞く姿が多く見られました。また、一般の受講者に加えて院内からも受講者が集まり、質疑応答も活発に行われました。

技工体験ではお子さん達が楽しそうに作業していて、石膏で出来上がった指型を興味深く見ていました。模擬店も事務課の鮮やかな連携によりやり遂げ、監視室の協力により照明をつるし、お祭り気分も盛り上がりました。

なお、模擬店の収益金については、大田区の福祉関係に寄付させていただきます。

(事務課)



### 第5回 院内コンサート

本年も健口フェスティバルの催し物の一つとして開催され、院内外からのボランティア合計18名が参加しました。西野 宏さんと山下美帆さんによるトランペットとピアノの演奏、昭和大学管弦楽団よりフルートアンサンブル、弦楽アンサンブル、木管五重奏、バイオリン独奏が行われました。

開催場所：歯科病院1階ロビー

演奏曲目：夜空のトランペット(ニニ・ロツソ作曲)、勝手にしやがれ(大野克夫作曲)、ホールニューワールド(アランメンケン編曲)、リトルマーメイドよりUnder the sea(アラン・メンケン作曲)、M(奥居香作曲)など

観客数：約30名

<みなさまからのご感想(アンケートより)>

- ・毎年このコンサートを楽しみにしています。
- ・和みました。もっと長く聴いていたかったです。
- ・もっと沢山のの人に聴いてもらえると良かったですね。

院内コンサート出演者募集！

院内コンサートにボランティア出演して頂ける方を募集しております。プロ・アマは問いません。

詳細は下記責任者までお問い合わせください。

院内コンサート責任者：口腔リハビリテーション科

横山 薫

(☎03-3787-1151 内線382)

## 編集後記

巻頭言に引き続きとなりますが、馬歯徒増(ばしとぞう)という熟語もあるそうです。「馬歯」は馬齢に同じで、「徒増」はただ徒(いたずら)に増えていく意味で、『成すこともなく、いたずらに年を取ること』だそうです。同義語として、馬歯日増(ばしにちぞう)、馬歯加長(ばしかちょう 注：ばかかちょうではありません。)もあるようです。

いずれの四文字熟語も、今年誕生日を迎える私には深く身にしみ入ります。。。

(K.T)